Economic Indicators

発表日:2021 年 8 月 13 日(金)

主要経済指標予定(2021年8月16日~8月20日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部 日本経済短期チーム(Tel:03-5221-4525)

(8月16日~8月20日の主なイベント、指標予定)

			指 標 名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
8月16日	(月)	8:50	4-6 月期 GDP1 次速報				
			実質 GDP 成長率(前期比)	+0.0%	+0.1%	▲ 0.1% ~ +0.6%	▲ 1.0%
			(同年率)	+0.1%	+0.5%	▲ 0.3% ~ +2.5%	▲ 3.9%
			名目 GDP 成長率(前期比)	▲0.4%	▲0.3%	▲ 0.7%~+0.5%	▲ 1.3%
			GDP デフレーター(前年比)	▲0.9%	▲0.9%	▲ 1.7% ~ +0.0%	▲0.1%
		13:30	6 月商業動態統計·確報				
			小売業販売額(前年比)	_	_	_	+0.1%
		13:30	6 月鉱工業指数·確報				
			鉱工業生産指数(前月比)	_	_	_	+6.2%
			(前年比)	_	_	_	+22.6%
			稼働率指数(前月比)	_	_	_	▲ 6.8%
			生産能力指数(前年比)	_	_	_	▲ 1.2%
8月17日	(火)	13:30	6月第3次産業活動指数				
			(前月比)	+1.7%	+1.8%	▲ 0.2% ~ +2.8%	▲ 2.7%
			(前年比)	+2.4%	_	-	+10.3%
8月18日	(水)	8:50	6月機械受注統計				
			船電除く民需(前月比)	▲ 3. 7%	▲ 2.8%	▲ 6.1%~+5.0%	+7.8%
			(前年比)	+15.5%	+15.6%	+11.7%~+24.4%	+12.2%
		8:50	7 月貿易統計				
			輸出金額 (前年比)	+41.6%	+38.8%	+23.2%~+50.7%	+48.6%
			輸入金額 (前年比)	+35.7%	+35.3%	+18.8%~+40.4%	+32.7%
			貿易収支(原数値、億円)	+2,967	+1,773	$+180 \sim +5,000$	+3,840
		14:00	6 月建設総合統計				
8月19日	(木)	8:00	8月ロイター短観				
			製造業DI	_	_	_	25
			非製造業DI	_	_	_	▲3
8月20日	(金)	8:30	7 月消費者物価指数(全国)				
			全国コア(前年比)	▲0.4%	▲0.4%	▲ 0.6%~+0.3%	+0.2%
			全国総合(前年比)	▲0.5%	▲0.4%	▲ 0.6%~+0.2%	+0.2%
		14:00	7 月コンビニエンスストア統計				
			既存店ベース売上高(前年比)	_		<u> </u>	+0.8%

|4-6月期GDP 次速報・実質GDP成長率| <u>当社予想:前期比年率+0.1% 中央値:同+0.5%</u>

前期比年率+0.1%(前期比+0.0%)と、ほぼゼロ成長にとどまると予測する。1-3月期の大幅マイナス成長の後にもかかわらず反発はみられず、景気の停滞感が強い状況が継続したことが示される見込み。新型コロナウイルスの感染再拡大と緊急事態宣言の発令によりサービスを中心に個人消費が押し下げられたことが響くほか、輸入の大幅増加により外需寄与度がマイナスになることも成長率の下押しにつながったとみられる。

(経済調査部長・主席エコノミスト:新家 義貴)

6月第3次産業活動指数 当社予想:前月比+1.7% 中央値:同+1.8%

6月の第3次産業活動指数は前月比+1.7%の上昇を予想する。6月は感染者数が一旦落ち着き、緊急事態宣言が解除されたことから、生活娯楽サービスや小売業を中心に上振れが見込まれる。先行きについては、7月は再び感染症が急拡大したことを受け、対面型サービスでの下振れが予想される。(副主任エコノミスト:大柴 千智)

6月機械受注・船舶電力除く民需 当社予想:前月比▲3.7% 中央値:同▲2.8%

6月の機械受注(船舶電力除く民需)は、前月比▲3.7%を予想する。5月に大きく増加した反動により、6月の機械受注は前月比で減少することが見込まれる。非製造業を中心に、弱い動きとなるだろう。先行きについては、回復基調での推移が見込まれる。感染状況の悪化が下押し圧力にはなるものの、好調な製造業の設備投資需要を背景に、全体としての設備投資は回復基調で推移することが見込まれる。

(主任エコノミスト:小池 理人)

|7 月貿易統計・貿易収支額(原数値)| 当社予想:2,967 億円 中央値:1,773 億円

7月の貿易収支は 2,967 億円の黒字(原数値)を予想する。輸出は、国際経済の回復を背景に、好調な資本財輸出を中心として堅調な推移が続くだろう。輸入についても、原油価格上昇や内需の回復等により、増加が続くだろう。輸出の増加幅が輸入を上回ることで、貿易収支は黒字となることが見込まれる。先行きについては、原油価格上昇や国内需要の回復によって、輸入が輸出を上回るペースで増加していく見込みから、貿易収支(季節調整値)は黒字幅の縮小ないしは赤字での推移となることが見込まれる。

(副主任エコノミスト:大柴 千智)

|7月全国消費者物価指数(生鮮食品除く総合)| 当社予想:前年比▲0.4% 中央値:同▲0.4%

2020 年基準への基準改定により、6月分の CPI コアは前年比▲0.5%となり、2015 年基準での前年比+0.2%から 0.7%Pt もの下方修正となった。。7月分は▲0.4%と、エネルギー価格の上昇により CPI コアは前月から下落幅が縮小すると予想するが、7月分でもマイナス圏での推移が続く見込み。 (経済調査部長・主席エコノミスト:新家 義貴)

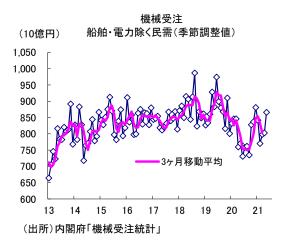
図表1 2021年4-6月期GDP予測

	(%)
実質GDP	0.0
(前期比年率)	0.1
内需寄与度	0.2
(うち民需)	0.2
(うち公需)	0.1
外需寄与度	▲ 0.3
民間最終消費支出	▲ 0.3
民間住宅	4.5
民間企業設備	1.0
民間在庫変動(寄与度)	0.0
政府最終消費支出	0.9
公的固定資本形成	▲ 2.2
財貨・サービスの輸出	3.0
財貨・サービスの輸入	4.4

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

図表3



図表5



図表2



図表4



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

